

単元名 ひきざん(1)

配当時間 10時間

単元の目標 (1) ひき算の記号や式の読み方、書き方、計算の仕方を理解し、求残、求部分、求差の場面を数図ブロックで操作し、ひき算の式に表して答えを求めることができる。
 (2) 求残、求部分、求差の場面を同じひき算と考えることができる。
 (3) 求残、求部分、求差をひき算の式に表すよさを知り、進んで式に表し、差を求めようとする。

標準的な展開例

01040109_001

【準備等】数図ブロック、ひき算カード

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 求残の場面を理解する。[p. 50・p. 51]</p> <ul style="list-style-type: none"> かえるの絵を見て話し合う。 残りはいくつか考える。 単元の学習課題をつかむ。 ★のこりやちがいについてかんがえていこう。 <p>2 求残の場面を減法の式に表し、答えを求める。[p. 52・p. 53]</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習課題をつかむ。 ★「のこりはいくつ」をひきざんのしきであらわそう。 ひき算の式の表し方を知る。 「練習問題」に取り組む。 <p>3 求部分の場面を減法の式に表し、答えを求める。[p. 54]</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習課題をつかむ。 ★もういっぽうのかずをもとめよう。 全体と一部分と求める部分の関係を考える。 全体と一部分から他の部分を求める。 「練習問題」に取り組む。 <p>4～5 10までの減法の練習をする。[p. 55]</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習課題をつかむ。 ★ひきざんカードでひきざんのれんしゅうをしよう。 答えが1になるカードを見付ける。 ひき算カードを作る。 ひき算カードを使って減法に習熟する。 巻末の「かあどげえむ」を紹介する。 <p>6 求差の場面を理解する。[p. 56]</p> <ul style="list-style-type: none"> かえるの絵を見て、違いを調べる。 本時の学習課題をつかむ。 ★「ちがいはいくつ」をかんがえよう。 違いはいくつか考える。 <p>7 求差の場面を減法の式に表し、答えを求める。[p. 57]</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題の場面を数図ブロックで表し、操作する。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物が去っていくことを、数図ブロックに置き換えて操作させる。 数図ブロックが右へ去っていく様子を視覚的に捉えさせる。増加の場合の逆であることを印象付ける。 <p>【評】 残りを求める場面を理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 半具体物の操作を式に表し、用語「ひき算」や記号「-」の読み方や書き方を指導する。 記号の書き方に注意させる。 帰る、いなくなる、食べる、飛んでいく、使うなどといった状況は、全て「ひく」こととして捉えることができるという点について理解させる。 <p>【評】 立式し、答えを求める活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 求部分の問題は「ひく」という動きがないので、半具体物の操作では、児童が自分で動かして考えるようにさせる。 「おすのコアラがいなくなったとして」「はずれを取り除いたとして」などというように求部分の問題を求残の問題に読み替えながら数図ブロックの活動を十分にさせる。 <p>【評】 部分の数を求める場面でも減法の式を適用できると判断する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 10までの範囲の減法について、素早く答えられるように習熟を図る。 繰り返し練習が必要なので、加法と同様に家庭の協力を得ながら繰り返し取り組ませるとよい。 <p>【評】 カードを使って減法の計算練習をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 差を求めるのは1対1対応が基本なので、問題の場面を数図ブロックに置き換え、それぞれを対応させて求差の場面を考えるようにすると効果的である。 入学期の算数p. 7で、どちらが多いか比較した経験を想起させる。 帽子をかぶっていないかえると帽子をかぶっているかえるを2種類の数図ブロックに置き換えて対応させる。 <p>【評】 違いを求める場面を理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 求差の場面が、減法の式で表されることを操作活動を通して児童が見付けられるようにする。 求残や求部分のブロック操作と同じことに気

<p>○本時の学習課題をつかむ。 ★「ちがいはいくつ」をひきさんのしきであらわそう。 ○ひき算の式に表し、答えを求める。</p> <p>8 求差の問題で「違い」の意味を理解する。[p. 58]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★「ちがいはいくつ」をひきさんにあらわしてとこう。</p> <p>○問題の場面を数図ブロックで表す。 ○「練習問題」に取り組む。</p> <p>9 場面絵を見て、減法の問題を立式し、その答えを求める [p. 59]</p> <p>○場面絵を見て話し合う。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★ひきさんにあらわしてとこう。 ○「練習問題」に取り組む。</p> <p>10 場面絵から加法・減法の問題を作ったり、絵本を作ったりする。 [p. 60・p. 61]</p> <p>○場面絵を見て話し合う。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★しきにあうおはなしづくりをしよう。 ○加法の問題のお話作りをする。 ○減法の問題のお話作りをする。 ○加法や減法の絵本作りをする。</p>	<p>付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多い方から少ない方をひくという順序を強調して指導する。 <p>【評】立式し、答えを求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数図ブロックで操作してから立式させるようにする。 ・「違い」という言葉の意味を、数図ブロックの操作を通して視覚的に理解させるようにする。 <p>【評】違いを求める場面でも減法の式を適用できると考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題の文章を何度も読み直させ、題意を絵や数図ブロックなどを用いて考えさせる。 <p>【評】減法の場面の文章題を立式し、答えを求める活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題意がつかめない児童には吹き出しの問題文を参考にさせて取り組ませる。 <p>【評】$3 + 4 = 7$，$7 - 3 = 4$になる場面を見付けて、話を作る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>
--	---

【 備 考 】

本単元は、10以下の数から1位数の数をひく計算の仕方を学習する。数図ブロックなどの操作活動を適宜取り入れることが大切である。また、初めの数量から取り去った残りを求めたり（求残），全体とその一部分が分かっている他の部分を求めたり（求部分），2つの数量の差を求めたり（求差）など、減法が用いられる様々な場面を学習の中に取り入れながら単元を構想することも大切にしたい。そして、これらの事柄に重点をおいた上で、どの児童も確実に計算ができるように指導する。